

# 異文化交流プログラム

教育・研究

国際交流

地域交流

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科 2年 星野由季菜

## 連携先

盛金WAC協議会  
茨城キリスト教大学

## 顧問教員

杉本 妙子（人文学部 教授）

## 参加者

浦井 晴香（茨城大学・人文学部・人文コミュニケーション学科）  
木村 優希（茨城大学・人文学部・人文コミュニケーション学科）  
清野 絢（茨城大学・人文学部・人文コミュニケーション学科）  
比屋根 利紀（茨城大学・人文学部・社会学科）  
星野 由季菜（茨城大学・人文学部・人文コミュニケーション学科）  
劉 勁詩（茨城大学・人文学部・社会学科）  
鴨志田 渉（茨城キリスト教大学・文学部・現代英語学科）

## プロジェクトの申請内容

### ●プロジェクト概要

私たちは「異文化を知るきっかけとして異文化交流の機会を作り、日本人及び外国人の相互理解を図る。また茨城県内の大学、水戸市周辺の高校生、市民の参加を募り地域貢献に努める。」という国際交流・地域貢献の二点を目的として二つの企画を実施した。

一つ目に常陸大宮市を舞台に地域交流活動を行っている盛金WAC協議会と連携し、「世界に触れよう！地域に触れよう！地域・国際交流合宿@常陸大宮」を行った。当合宿を通して留学生に大学生や現地の方々の異文化交流の機会をつくること、並びに学生が観光や異文化体験を通してその地域に関心を持たせ地域貢献に努めることを目的とし実施した。

二つ目に「海外を近くに感じよう！2013」という国際交流学生フォーラムを、高校生を対称として茨城大学で開催した。当企画は若い世代の海外への関心が高まり世界へ視野を広げるきっかけ作りを目的とし、留学体験談の発表や座談会、国際交流ゲームなどを実施した。

### ●目的

国際交流・地域貢献

### ●目標

本プロジェクトの「地域貢献・国際交流」の目的を達成すべく「異文化交流の機会が少ない学生や市民に交流の場の提供。」と

「学校やテレビ、本などでは知ることが出来ないことを、実際の交流を通じて直接的に感じ、知ることが出来る場を提供。」を目標とする。

### ●期待される成果

国際交流合宿で寝食を共にすることにより、日本人と外国人の相互理解が深まる。また、道中で地域の方々や盛金WAC協議会の方々との交流が期待される。国際交流フォーラムでは、

日本人学生や高校生に異文化に触れる機会を提供することで海外への関心を高め、彼らが直接・間接の体験によって世界へ視野が広がること期待される。また、このフォーラムを通して得た知識、経験を地域へ還元することにつながるものと考えられる。

## プロジェクトの実施概要

### 地域・国際交流合宿@常陸大宮

- 7月上旬 当日の具体的な企画案作成
  - 中旬 盛金WAC協議会、その他との交渉
- 8月中旬 常陸大宮市、大子町現地見
- 9月上旬 当日の企画スケジュールの決定
  - 参加者募集開始、ポスター作製
- 下旬 参加者決定、追加募集
  - しおり、当日の資料類作成
- 10月上旬 参加者最終決定
- 10月5-6日 合宿開催

### 国際交流学生フォーラム 海外を近くに感じよう！2013

- 7月下旬 昨年度の企画内容の見直し
- 8月～9月 当日の具体的な企画案作成
- 10月中旬 ポスター、チラシ作製
  - 各高校へ参加者募集開始
- 11月中旬 参加者募集締め切り・決定
- 11月下旬 参加者に向けて案内状送付
- 12月上旬 当日の資料類作成
- 12月8日 フォーラム開催

## プロジェクトの成果報告

### ●今年度得られた成果

◇一つ目の企画である国際交流合宿では茨城大学、茨城キリスト教大学、常磐大学から計29名（内留学生7名）が参加し、二日間に渡り開催した。合宿を通して異文化体験と国際交流及び大学間交流が行われ、参加者の現在も続く大学

間の繋がりを生み出すことができた。また文化体験では留学生だけではなく日本人にとっても初めての経験を与えることができた。成功要因として文化体験先の地域の方々の対応、また運営側が親睦を深めるために多くのグループ活動を企画したことが挙げられる。

一方で地域間交流については課題が残った。その原因として生徒間が交流する機会が重点化され、地域の方々と活動を通じた交流はあったものの、語り合うような場を設けることができなかったことがあげられる。この点は連携先である盛金WAC協議会の方も言及しており、国際交流に比べ地域交流の不十分さをご指摘いただいた。地域の方々が学生に何を求めているか、を事前に調査したうえで合宿の内容を設定することで、より活発に地域交流を行えたのではないかと反省が上がった。この合宿において国際交流と地域交流の両立の難しさを感じさせるものであった。



「地域・国際交流合宿 集合写真」



「合宿 常陸大宮市 紙の里 漉き絵体験」



「合宿 大子町 袋田の滝 観光」



「フォーラム 座談会の様子」

◇二つ目の企画の国際交流フォーラムでは大学生42名（内留学生18名）、高校生44名の計86名が参加する大規模な企画となった。今回のフォーラムは終日行われ、多くの高校生に異文化交流の経験や海外に関する知識などを得てもらうことができた。事後アンケートの結果からも高評価が見受けられ、高校生の約9割がフォーラムに対して概ね満足したと回答。また国際交流以前に、大学生側は大学で学んだことや自らの経験を地元地域の高校生に与えることができた。また昨年度に行われた当企画の前身である国際交流フォーラムと比較しても、参加人数や参加規模、実施内容を発展させることができた。

当フォーラムの目標の一つである若い世代へ海外の関心をもってもらうことは達成することができた。地域貢献の面において今後それが地域に還元されるかは定かではないものの、地域の高校生にグローバルな視野を与える一助になったという点において、今回のフォーラムが地域貢献に多少なりとも寄与したものとする。

当プロジェクトをきっかけとして新しく作ることができた大学間、地域間とのつながりは今後活動していく際にも、大きな成果だと考える。



「フォーラム 集合写真」

## ●外部評価

### ①合宿アンケート結果

合宿参加者のアンケートの結果、合宿全体の評価として9割以上の方に大変良い、または良いと回答して頂いた。

また、合宿で何が一番良かったかという質問に対して、国際交流と他大学との交流が全体の5割占めているように(図1)、主な感想としては「文化体験と国際交流が一緒にできて良かった」「他大学の人たちや留学生と楽しい時間を過ごすことができた」などが挙げられた。合宿を通して参加者同士の交流のきっかけを作ることができたと思われる。

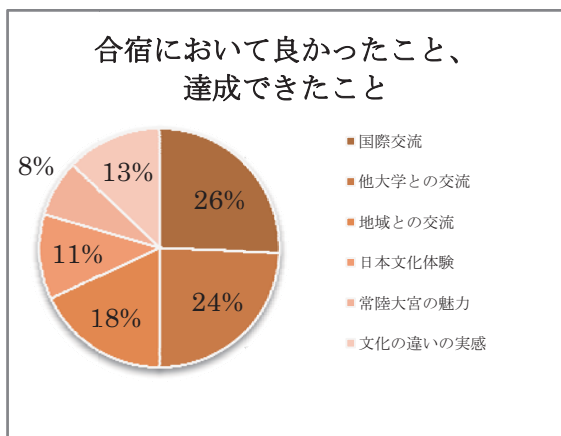


図1

## ②フォーラムアンケート結果

フォーラムに参加した高校生に対するアンケートの結果、フォーラム全体の評価としてほぼ全ての方々に良い、どちらかというとも良いと回答して頂いた。

フォーラムを通じて海外を近くに感じることができたかという質問に対し、9割以上の方ができた、どちらかというともできたと回答しているように(図2)、フォーラム全体として印象的だったこと、良かったこととして、「本場の言葉を聞いて海外に行きたくなった」、「留学体験談を聞いて留学について興味を持てた」、「座談会で文化の違いや海外の魅力などについて知ることができた」などが挙げられた。フォーラム内の留学体験談、座談会などが高校生に海外に興味をもってもらうきっかけとなったのではないかとと思われる。

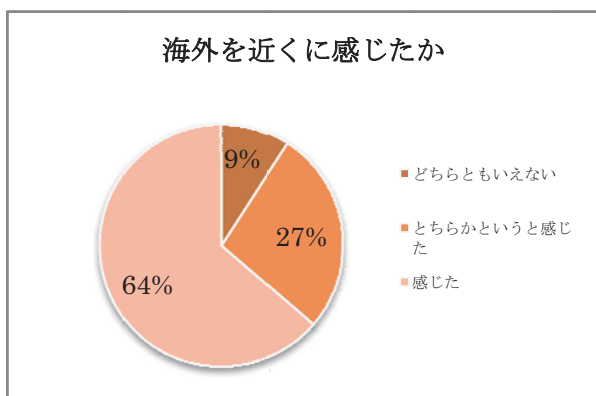


図2

また、参加した留学生と日本人大学生に対するアンケートの結果、フォーラム全体の評価として高校生と同様にほぼ全ての方々に良い、どちらかというとも良いと回答して頂いた。

高校生との交流を通して印象的だったこととして、「自分と同じものに興味関心がある高校生と話す機会がないから、自分も刺激を受けた」、「高校生の意識が高く夢を持っている」などが挙げられた。

フォーラムによって高校生の海外に対する興味や意識の向上だけでなく、高校生との交流によって大学生への新しい刺激の発生を実現できたと思われる。

## ●今後の課題

今回の企画は国際交流という点ではかなり充実していたが、地域貢献の色が国際交流ほどは濃くなかったという反省がでた。次回同様な企画を行う場合は地域の方々と学生がもっと活発に意見交換ができる場を設け、地域交流をより活発に行いたい。また、今年の参加者は主に学生が中心であったが、例えば水戸市在住の外国人の方にまで広報するなどして、参加者層を拡大することで地域交流の活発化、また、今年とは違った新たな刺激を参加者に与えられるのではという考えに至った。今後も、学生と留学生、地域の交流を企画する際にはこの経験を活かしていきたい。



「合宿 日本文化体験 ベーゴマ回し」



「合宿 キャンプファイヤー」



「フォーラム 留学体験談の様子」



「合宿 そば作り体験」



「フォーラム 国際交流ゲームの様子」



「フォーラム 昼食の様子」